

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 目 次

( 1 ) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析 .....	2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析 .....	2
ウ 新設学科等の趣旨目的，教育内容，定員設定等 .....	2
エ 学生確保の見通し.....	3
A．学生確保の見通しの調査結果 .....	3
B．新設学部等の分野の動向 .....	4
C．中長期的な 18 歳人口の全国的，地域的動向等.....	4
D．競合校の状況 .....	5
E．既設学部等の学生確保の状況 .....	5
F．その他，申請者において検討・分析した事項.....	5
オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	6
( 2 ) 人材需要の動向等社会の要請.....	6
人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）.....	6
上記 が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠.....	7

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

大分大学医学部の前身である大分医科大学は、昭和 51 年 10 月に開学し、その後、平成 6 年に看護学科を設置、平成 15 年 10 月に大分大学と統合し大分大学医学部(以下本学部)となり、令和 5 年に本学部では 29 年ぶりの新学科として、先進医療科学科を開設したところである。

本学部医学科(以下本学科)においては、大分県の医師不足や偏在の解消に貢献するため、平成 19 年度から入学定員内に地域枠(学士:3 名)を導入し、平成 21 年度からは地域枠による増員(平成 21 年度 5 名:平成 22 年度以降 10 名)を開始し、現在は、総合型選抜に 13 名の地域枠を設け、多くの地域枠出身の医師が大分県内の地域中核病院で活躍している。

### イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

地域医療を担う医師の不足という深刻な状況から、平成 21 年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成 29 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を、また「経済財政改革の基本方針 2008」に基づき 5 名の恒久定員増をそれぞれ実施した。

さらに、平成 22 年度に「経済財政改革の基本方針 2009」に基づき平成 31 年度までの期限を付した 5 名の臨時定員増を実施した。また、平成 29 年度には時限を迎えた「緊急医師確保対策」に基づく臨時定員 5 名を平成 31 年度まで 2 年間延長し、経済財政改革基本方針に基づき臨時定員 10 名を更に令和 5 年度まで 4 年間延長した。

大分県からも医師偏在の非常事態に直面しているへき地医療に対する医師の育成について強い要望があるため、今後も継続して取り組む。

### ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

大分県においては、大分・別府を除く地域で医師の不足や偏在、診療科の偏在が大きな問題となっている。このような状況の中で、本学科の使命は、地域の特性やニーズを深く理解し、大分県内で働く優れた医療人を育成し、その適切な配置と人材供給を行うことである。地域の医療機関との連携を重視し、地域医療の魅力と使命感を理解し、地域医療に従事する医師を育成するためのカリキュラムやプログラムが構築され、地域医療の発展に取り組んでいる。

今後も、地域医療を担う医師の不足や偏在等が見込まれるため、令和 5 年度に引き続き令和 6 年度も 10 名の臨時定員について申請する。

教育内容については、地域医療(へき地を含む)に携わる医療人の育成をめざし、1 年次の入学直後の「早期体験実習」(3 日間)では、地域の障害者支援施設で介護実習を、3 年次の「地域医療実習・講義」(2 週間)では、地域医療の現状と課題に関する講義に加えて、県内 55 箇所の診療所(へき地診療所を含む)での体験実習を、4 年次の「研究室配属」では、地域枠を含めて地域医療に興味のある学生は総合診療・総合内科学講座、総合外科・地域連携学講座に配属され、地域をフィールドとした臨床研究を、5 年次の「地域医療実習」(2 週間)では、大分県内 16 箇所のへき地医療拠点病院で泊まり込みの実習を、また、「総合診療科実習」(2 週間)では、地域の家庭医や病院総合診療医の協力を得て、外来診療・在宅医療・救急を含めた体験型臨床実習を行うなど、地域医療教育をカリキュラムに組み込み充実させている。

上記のカリキュラムに加え、夏季の大分県地域医療研修会及び冬季の“へき地医療中核病院”の医師による講演会・交流会に参加する。医学部附属地域医療学センターの教員によるキャリア支援とともに、地域枠の卒業生と在校生による“大分の地域医療の明日を拓く会”による屋根瓦式の支援体制が構築されており、早期から段階的に地域医療を体験し、知識・技術・態度の習得とともに使命感や、やりがいを実感することができている。令和6年度以降もこのカリキュラムを継続し、さらに充実させ、優秀な卒業生を輩出して地域医療の発展に寄与していく。

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年文部科学省令第16号）」に定める「標準額」を適用し、次のとおり設定する。

入学料 282,000 円

授業料 535,800 円（年額）

検定料 17,000 円

## エ 学生確保の見通し

### A. 学生確保の見通しの調査結果

本学科の過去5年間の志願者倍率は3.2～5.6倍、そのうち総合型選抜（A0入試）の地域枠志願者倍率は3.2～5.2倍となっており、定員充足率も満たしているため【図表 本学科の入学志願状況等（令和5年度～平成31年度）】、医学部入学定員の暫定措置による期間延長措置を行っても学生確保は十分であると考えられる。

図表 本学科の入学志願状況等（令和5年度～平成31年度）

年度	入試種別	募集人員	志願者	志願倍率	入学者	定員充足率
令和5年度	前期日程	65	395	6.1	66	
	総合型選抜（一般枠）	22	122	5.5	21	
	総合型選抜（地域枠）	13	42	3.2	13	
	計	100	559	5.6	100	100%
令和4年度	前期日程	65	253	3.9	66	
	総合型選抜（一般枠）	22	75	3.4	21	
	総合型選抜（地域枠）	13	50	3.8	13	
	計	100	378	3.8	100	100%
令和3年度	前期日程	65	178	2.7	65	
	総合型選抜（一般枠）	22	104	4.7	22	
	総合型選抜（地域枠）	13	41	3.2	13	
	計	100	323	3.2	100	100%
令和2年度	前期日程	65	285	4.4	65	
	A0入試（一般枠）	22	101	4.6	22	
	A0入試（地域枠）	13	65	5.0	13	
	計	100	451	4.5	100	100%

平成 31 年 度	前期日程	65	286	4.4	65	
	A0 入試（一般枠）	22	155	7.0	22	
	A0 入試（地域枠）	13	68	5.2	13	
	計	100	509	5.1	100	100%

## B. 新設学部等の分野の動向

九州・沖縄地区の国立大学医学部医学科の令和 5 年度の志願倍率は、2.6 倍～12.6 倍であり、本学科においては 5.6 倍と高く【図表 九州・沖縄地区の国立大学医学部医学科の入学志願状況（令和 5 年度）】、令和 6 年度においても、定員の充足は十分可能であると考えられる。

図表 九州・沖縄地区の国立大学医学部医学科の入学志願状況（令和 5 年度）

	募集人員	志願者数	志願倍率
九州大学	105	275	2.6
佐賀大学	103	583	5.7
長崎大学	105	361	3.4
熊本大学	110	432	3.9
宮崎大学	100	1,255	12.6
鹿児島大学	110	696	6.3
琉球大学	112	1,148	10.3
大分大学	100	559	5.6

各大学公表入試情報により作成

## C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

日本の 18 歳人口の推移については、1992 年以降右肩下がり続け、今後も減少すると予測されている。他方、本学科志願者の約 6 割を占める九州・沖縄地域の 18 歳人口も減少が予測されているものの、2022 年～2034 年の将来推計値は全国値よりも 6 ポイント程度下回るとされており（リクルート進学総研マーケットリポート 2022）、志願者数で 3 割を占める、最多の大分県が減少度合いの低い県に位置しているだけでなく、志願者数で二番手である福岡県では増加が推計されている【資料 1 令和 5 年度（2023 年度）出身高等学校等所在地別志願者数、資料 2 都道府県別人口減少率 リクルート進学総研マーケットリポート 2022】。

大学進学率では、2013（平成 25）年から 2022（令和 4）年の 10 年間で九州地域及び大分県でも 6 %程度増加している傾向にあり、また大学進学の際の地元残留率では、九州地域全体では変わらないが、大分県は 2 ポイント増加している【資料 3 地元残留率の推移 リクルート進学総研マーケットリポート 2022】。これらを考慮すると、本学科の定員の充足は可能であると判断する。

## D. 競合校の状況

競合校としては、九州・沖縄地区の国立大学医学部医学科が考えられるが、いずれの大学も志願倍率が高く、また、定員充足率も100%を超えており【図表 競合校の入学志願状況等（令和5年度）】、令和6年度においても、本学科の定員の充足は、十分可能であると考えられる。

図表 競合校の入学志願状況等（令和5年度）

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
九州大学	105	275	246	108	108	102.9%
佐賀大学	103	583	360	106	103	100.0%
長崎大学	105	361	313	106	105	100.0%
熊本大学	110	432	409	114	110	100.0%
宮崎大学	100	1255	377	104	100	100.0%
鹿児島大学	110	696	379	113	110	100.0%
琉球大学	112	1148	424	115	112	100.0%

各大学公表入試情報により作成

#### E. 既設学部等の学生確保の状況

過去5年間の入学志願状況等(志願者数,受験者数,合格者数,入学者数,定員充足率)は【図表 医学部医学科入学志願状況等（令和5年～平成31年）】に記載のとおりである。

本学科の過去5年間の志願者倍率は3.2～5.6倍、また、複数選抜間での重複志願者を除いた場合でも2.7倍から4.9倍と高い値となっており、定員充足率も満たしているため、定員の充足は十分であると考えられる。

図表 医学部医学科入学志願状況等（令和5年度～平成31年度）

年度	募集人員	志願者数	志願者数 (複数選抜間での 重複志願者抜き)	受験者数	受験者数 (複数選抜間の受験者重複抜き)	合格者数	入学者数	定員充足率
令和5年度	100	559	494	236	226	102	100	100%
令和4年度	100	378	333	233	221	103	100	100%
令和3年度	100	323	274	219	201	102	100	100%
令和2年度	100	451	399	241	225	102	100	100%
平成31年度	100	509	456	234	214	101	100	100%

#### F. その他、申請者において検討・分析した事項

先に述べたように、本学科の過去5年間の志願者倍率は3.2～5.6倍、九州・沖縄地区の国立大学医学部医学科の令和5年度の入学志願状況は軒並み2倍以上であり、医学部入学定員の暫定措置による期間延長措置を行っても、学生確保は十分であると考えられる。

#### オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた取組としては、大分県内外で実施されている進学説明会、毎年8月上旬に開催するオープンキャンパスに加えて、県内の高校2年生を対象にした、『高大連携 地域医療魅力発見セミナー』を実施している【図表 過去5年間の参加者（高校生のみ）】。

本セミナーは、「ふるさと大分を支える人材育成事業」の一環として、大分県教育委員会と医学部附属地域医療学センターの共同主催にて平成22年から開催しており、大学病院や地域医療に従事している医師・メディカルスタッフらの講師による大分県の地域医療の現状等に関する講演や、医学生による学生生活などに関する講演、さらに医師の指導による体験学習及び医療に関するグループ別討議などの経験を通して、大分県下の高校生の地域医療への意識向上を促し、将来大分県の地域医療を支える人材の育成を図ることを目的として、今年度は、12月下旬に開催を予定している。

また、本セミナーの効果として、セミナー終了後に実施したアンケートでは、満足度は非常に高く、医療全般や大分県の地域医療に対する関心がより深まったことが伺えた【資料4 第13回 『高大連携 地域医療 魅力発見セミナー』参加者感想】。

図表 過去5年間の参加者（高校生のみ）

実施年度	参加者数	備考
令和4年度	70名（12校）	Web開催
令和3年度	70名（14校）	Web開催
令和2年度	82名（11校）	Web開催
平成31年度	104名（11校）	
平成30年度	74名（11校）	

#### （2）人材需要の動向等社会の要請

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

医学に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学知識並びに技術、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師、医学研究者を養成し、これら学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与することを基本理念とし、下記のとおり教育目標と行動目標を定めている。

##### 教育目標

患者の立場を理解した全人的医療を行い、豊かな教養と人間性、高度の学識、問題解決能力、生涯学習能力及び国際的視野を備えた医師や研究者を養成する。

##### 行動目標

- 1 幅広い教養と高い倫理観、責任感を備え、豊かな感性を養う。
- 2 問題発見・解決能力を習得し、疾病予防や診断、治療方法の改善、原因や病態の解明向上

に貢献し，最新の医学知識や技術を習得するための生涯学習能力を身につける。

- 3 個人の生命や健康，権利，尊厳を守り，コミュニケーション能力と協調性並びに指導力を備え，全人的医療やチーム医療の実践を行う。
- 4 医療や保健・福祉の問題を理解し，広い視野から地域社会のみならず国際的にも活躍，貢献する。
- 5 大分県の地域医療に対する適応力を身につける。

上記 が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

【資料5 地域中核病院の医師充足率「安心・活力・発展プラン 2015 とともに築こう大分の未来～2020 改訂版～」】により，安心して質の高い医療提供体制の整備や，医療従事者の育成・確保等の取組みが必要とされる中で，地域中核病院の医師不足が指摘されていることから，上記 が社会的，地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることは明らかであると判断できる。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

- 資料1 令和5年度（2023年度）出身高等学校等所在地別志願者数
- 資料2 都道府県別人口減少率 リクルート進学総研マーケットリポート2022
- 資料3 地元残留率の推移 リクルート進学総研マーケットリポート2022
- 資料4 第13回『高大連携 地域医療 魅力発見セミナー』参加者の感想
- 資料5 地域中核病院の医師充足率  
「安心・活力・発展プラン2015 ともに築こう大分の未来～2020 改訂版～」



# 資料 1

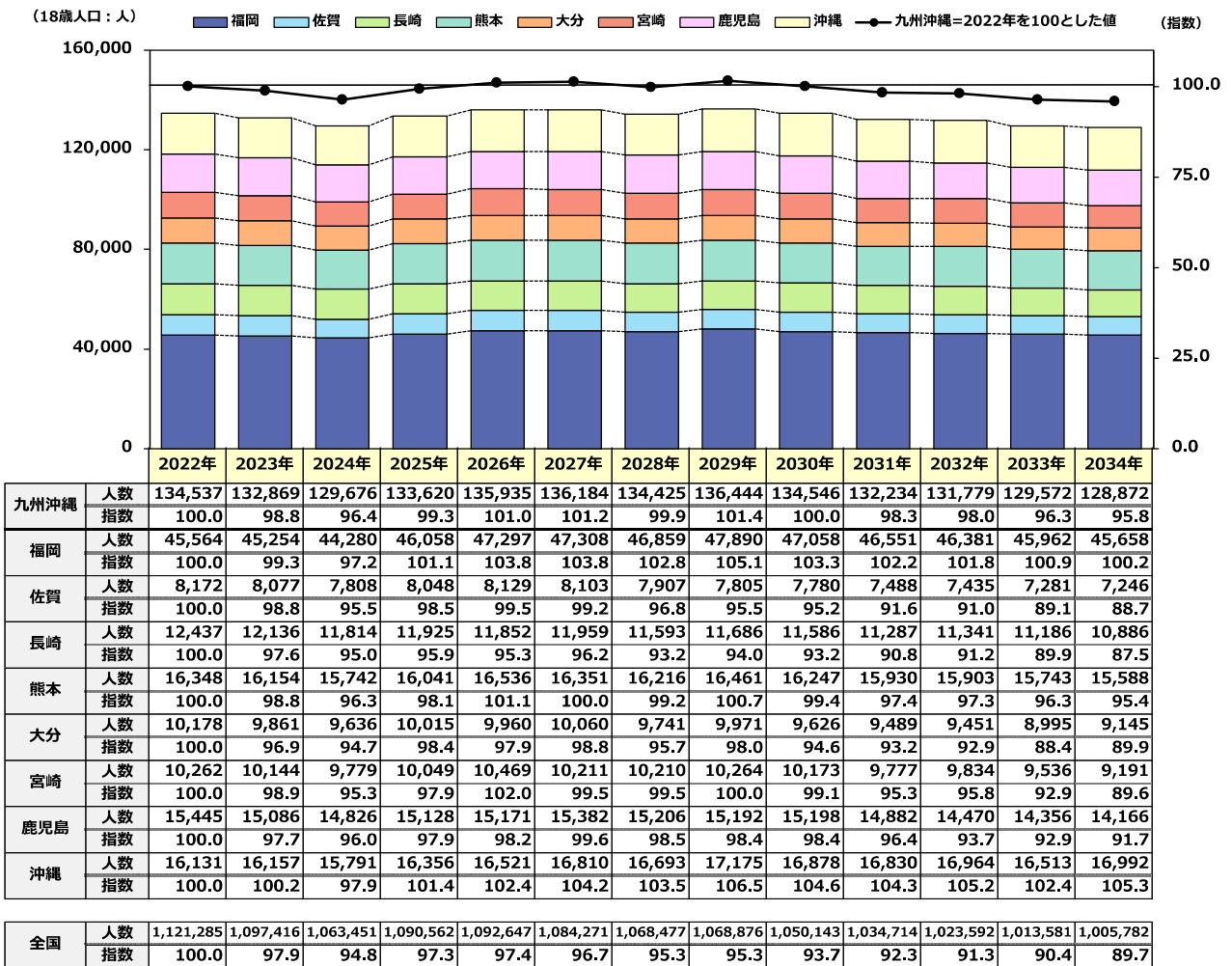
令和5年度（2023年度）出身高等学校等所在地別志願者数

	九州・沖縄								四国					中国					近畿					中部					北陸					関東					東北・北海道					その他	合計												
	大分	福岡	佐賀	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄	小計	高知	愛媛	香川	徳島	小計	山口	広島	岡山	島根	鳥取	小計	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	滋賀	小計	三重	愛知	静岡	岐阜	長野	山梨	小計	福井	石川	富山	新潟	小計	神奈川	東京	千葉	埼玉			群馬	栃木	茨城	小計	福島	山形	秋田	宮城	岩手	青森	北海道	小計
一般選抜	79	67	7	10	15	10	9	6	203		3	3	2	8	3	16	9	1		29	4	2	12	19	6	1	44	4	18	8	4	6	2	42		2	2		4	9	24	5	6	5	2	4	55							9	9	1	395
総合型選抜	90	21	1	2	1	4	4	3	126		1		2	3		4				4		1		6		2	9			1		2		3			1	1	3	4	3	2	1		2	15				1			2	3		164	
合計	169	88	8	12	16	14	13	9	329	0	4	3	4	11	3	20	9	1	0	33	4	3	12	25	6	3	53	4	18	9	4	8	2	45	0	2	2	1	5	12	28	8	8	6	2	6	70	0	0	0	1	0	0	11	12	1	559

## 18歳人口予測（全体：九州沖縄：2022～2034年）

### ■ 2022年134,537人→2034年128,872人（5,665人減少）

- 九州沖縄エリアは5,665人・4.2%減少し、全国の減少率10.3%を6.1ポイント下回る。
- 2024年に129,676人まで減少し、2027年にかけて6,508人増加。翌2028年に1,759人減少し、翌2029年には2,019人増加するが、2030年から2034年は減少傾向。
- 減少率が高いのは、長崎県（2022年比較12.5%減少）。
- 減少数が多いのも、長崎県（2022年12,437人→2034年10,886人、1,551人減少）。



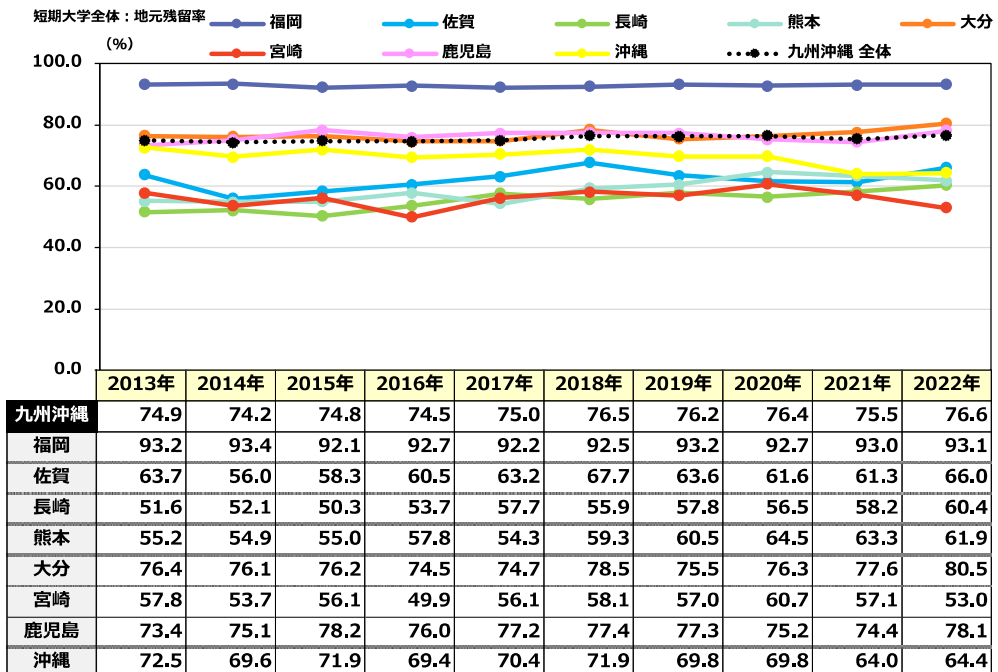
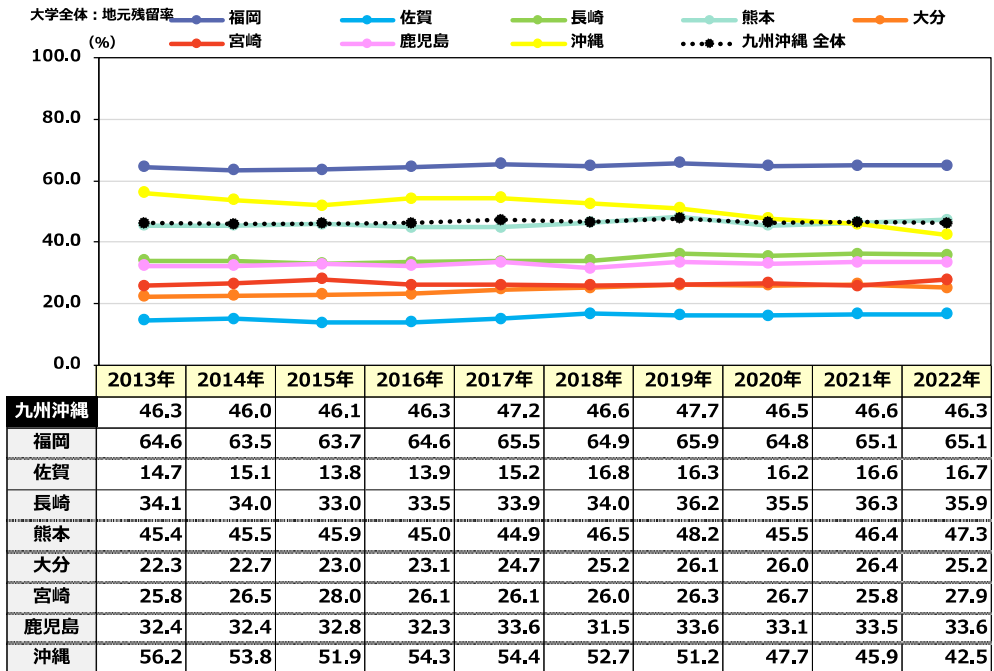
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

## 地元残留率の推移（全体：九州沖縄：2013～2022年）

■ 大学は、2013年46.3%→2022年46.3%（変動なし）

短期大学は、2013年74.9%→2022年76.6%（1.7ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、大分県（2013年22.3%→2022年25.2%、2.9ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、長崎県（2013年51.6%→2022年60.4%、8.8ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

# 資料 4

## 第13回 『高大連携 地域医療 魅力発見セミナー』参加者の感想

実際に医学部で学んでいる方、各病院で働いている方のお話を聞けたことはとても貴重だった。
印象に残ったのは地域枠制度。医療格差の是正に向けて県に貢献したいという気持ちは私も持っているので、医師偏在や地域と密接な関係を持つ大分大学には、他大学とは違う魅力を感じた。
大分県は地域格差がひどいため、オンラインで他のスタッフと連携をとることが大事だと感じた。
実際に学生の方、医師の話聞き、地域枠ではあんなことやこんなことができるということをととてもよく知ることができた。
大分県での地域医療について、特に小児科医が不足しているとおっしゃっていたので、将来小児科医としてこれからの大分の医療に携わりたいと思った。
大学生の話聞いて大学生活が楽しみになった。
ディスカッションで他校のいろんな考え方の意見を聞いて、地域医療に対する考え方が変わった。
いい刺激を得ることができた。
地域枠制度で入学し、医師として働いている先生方の話はとても興味深く、新鮮でより一層「医師になりたい!!」と思った。
地域枠制度にマイナスな点はあまりなく、むしろ地域だからこそその魅力があることを知った。
コロナ禍で、あまりできなかった他校の生徒との議論ができたことで充実した時間を過ごせた。
これからもたくさん勉強し、今回お会いできた先生方のような立派な医師になれるよう努力していきたい。
医学部はいつも勉強で忙しいと思っていたが、部活動や旅行などを楽しんでいたのが意外だった。
「疾患」を治すのではなく「疾患にかかった患者」を治すと言っていたのが印象深かった。
グループディスカッションで同年代の学生たちが、自分よりはるかに多い知識を持っていたのが衝撃だった。
今まで自分が考えていた地域医療に対するイメージを、より具体的なものにすることができた。
自分も大分に貢献できる医師の一人になりたいと思った。
実際に地域枠で入学した大学生や医師の話聞き、9年間でさまざまな環境で経験が積めるようになっていくことがわかった。
今まで地域枠にデメリットを感じていたが、今回のセミナーを受けてむしろ地域枠のほうが良いのではないかと思った。
大学生や若手医師の話聞くことで、入学から卒業までの大学生活や卒業後の医師としての生活について、自分なりのイメージ像がつかめた。
グループディスカッションでチーム医療について真剣に考え発表したことが自分にとって大きな糧となり、自信を持った。
セミナーで学んだことを生かして、勉強だけでなく部活動やボランティア活動に積極的に取り組み、人間性や社会性を高めていきたい。
医療について議論するという経験が初めてで、自分にとって非常に新鮮だった。
長時間労働、医師不足など問題となっていることすら認識していなかったが、この機に調べたことで、解決策について友達と良い議論ができたと感じた。
医学生からの話を聞いて、合格後の世界を少し鮮明に思い描くことができ、これをモチベーションにこれからの学習も頑張りたいと思った。
自分のなりたい医師像がより具体的な明確になったと感じた。

<p>大学6年間の様子も聞くことができ、専門的なことを学ぶのが楽しそうだった。</p>
<p>海外との連携もとれていて、将来は海外で働いてみたいという私の夢も現実味がありとてもワクワクした。</p>
<p>このセミナーを受講して、実際に地域枠で入学して働いている方の話を聞くことができ、自分で調べるだけでは分からない学生生活や研修のことを知ることができた。</p>
<p>他校の意見を聞くことによって新たな発見もあり、非常にいい経験になった。</p>
<p>医療に対する興味・関心がこのセミナーのおかげで強くなり、ますます将来医療に携わりたいと思うようになった。</p>
<p>自分は地域枠での入学を考えているので、実際に地域枠で入学した医学部生のお話を聞き、とても参考になった。</p>
<p>地域枠で大学を卒業したあと、県内の病院でどのように研修を積んでいくのかなどを具体的に知ることができた。</p>
<p>自分の高校の代表として発表させてもらったが、他校の話を聞くことで自分では気づかなかった視点もあり実りのあるディスカッションとなった。</p>
<p>世界、日本、大分の医療情勢についての情報収集を続けようと思う。</p>
<p>3つのディスカッションテーマについて他校の生徒さんの多角的な意見を聞くことができた。</p>
<p>講演では、現在の大分の医療の状況や実際に地域で働くことのメリット、進路選択についてのたくさんの知識が得られた。</p>
<p>私の将来の目標は、大好きな地元大分で地域医療に貢献すること。そのために大分の医療の状況を調べて、知識を増やしたいと強く感じた。</p>
<p>セミナー前には自分の考えになかった新しい視点からの意見に、大きな刺激を受けた。</p>
<p>医学部や医師は時間がなく多忙だと思っていましたが、実際はメリハリをつけ、時間を有効活用することで自分の時間を作ることができると知った。自分も時間管理をできるよう頑張りたい。</p>
<p>各校の生徒はいろいろなことを調べて自分の意見を持っていたので、自分も自らの意見を持ち、日頃から医療に興味を持って生活していこうと思う。</p>
<p>今後は高校での勉強だけでなく、高齢者や子育て、地域社会など生きていくうえで関わることを早めに勉強していきたい。</p>
<p>普段あまり話を聞くことのない医学科の学生さんや医師として働いている方々のお話を生で聞くことができ、今後の具体的なイメージができるようになり、地域医療への興味もわいてきたので、とてもいい経験になったと思う。</p>
<p>地域医療やチーム医療に対する自分なりの意見をもてるようになったのでよかった。</p>
<p>今後さらに自分の進みたい道を明確にして、それに向けて努力していけるよう、今回のセミナーを生かしたい。</p>
<p>より一層将来の姿がはっきりして、目標が明確になってきた。</p>
<p>3人の講師の方の話を聞いて、合格した後の医学部での6年間、卒業後の医師としての仕事をイメージすることができた。</p>
<p>グループディスカッションでは、同じ年齢で将来医療系の仕事をを目指す人たちの考えを聞いたことで、とても刺激になり身が引き締まる思いだった。</p>
<p>地域医療の魅力を感じた。</p>
<p>地域枠の生徒と対象として研修などがあることを知り、大分で医師になるなら地域枠で医学部入学を目指したいと思った。</p>
<p>今日のセミナーを聞いて、もともと興味があった大分の地域医療についてより魅力を感じた。</p>
<p>医学部での学生生活をイメージすることができて、今後の勉強のモチベーションが高まった。</p>
<p>外科系に興味があったので外科の様子を知ることができたのが良かった。</p>
<p>なかなか知ることのできない医学の世界の内情を体験させてもらえてありがたかった。</p>

研究と診療で迷っていたが、今回、進路決定の材料となる話がたくさん聞けたので、自分の中でまた吟味していきたい。
地域医療は、地域に住む自分たちに深くかかわる命題だと思うし、地域で活動する医師はそれに取り組む義務があると思う。
今回の経験を心に留めて、医師になった時の自分の行動に活かしていきたい。
研修や卒業後の多くを、市外の病院で過ごしていることはとくにいいなと思った。
知識や学力のみが必要なわけではないことを今回のセミナーで感じた。
他人のために時間を使い、気持ちを考えて行動できる人物を目指したい。
チーム医療のディスカッションでは他校のすばらしいアイデアに刺激を受けた。やはり他人とのコミュニケーションが重要だと感じた。
チーム医療においてリーダー的存在になるという意見がある高校から出ていて、医師になることの大きな責任を感じた。
訪問診療などは、現在の高齢化した大分では重要だと思った。
とても興味深い内容で、実際に自分がその立場になった時、実践したいと感じた。
都市の方が高いレベルの医療をみられてよいと思っていたが、地方の方が若いうちから経験を積むことができ、横や縦のつながりも増えるのでいいなと思った。
自由な時間が多く、少し遠くに行き活動することも多くて楽しそうだった。
大分県は少子高齢化が進み、地方での医師数が不足していることが課題だと知った。
卒業後の話を聞いて、どのような学校生活を送ることができるのか、知ることができた。
地方で働くことに抵抗はあったが、豊富な経験を積むことができるなど魅力もあと分かった。
地域での医療にあこがれがあるので、現在地域で働いている方のお話を聞くことができとても嬉しく思った。
地域枠だと、すごく隔地にいかなければならないと思っていたので少し安心した。
大学でも勉強が大変だと思っていたので、旅行や部活などの写真を見て楽しそうだと感じ、勉強のモチベーションになった。
地域で働いている方々の話を聞いて、やはり地域医療は患者さんとの距離が近く、環境が温かいという点で魅力的だと感じた。
自分の育った地域だからこそ、その地域の雰囲気を知っているため患者さんとの距離が近いという点に大きな魅力を感じた。
「チーム医療」で、安心できる医療の提供に一步近づけるのだろうと感じた。
チーム医療だけでなく、患者さんと真摯に向き合うことのできる大分での医療の魅力に気づくことができ嬉しく思いました。
これまで多くの大分大学医学部の講演会に参加してきましたが、今回の講演が一番大学生活について学べた。
思っているより時間があること、卒業後のへき地でもその土地の魅力に触れながら楽しく活動ができることなどは、特に今後の進路を決める重要な情報となった。
漠然と医学部に入りたいと思っていたが、今回のセミナーを受講して今後のイメージが明確になってきた。
地域医療のやりがいや、実際の生活の様子を聞いて、地域医療の魅力に気づいた。
医大生や医師、他校の生徒の話を聞いて刺激を受けたので、この気持ちを忘れず勉強をがんばりたい。
大分県の住民の生活を支えるために、大分出身の医師が必要不可欠だということが分かった。
地域枠の魅力をとても詳しくしることができ、貴重な経験になった。

<p>医師に必要なことは、知識・体力・思いやり・感謝の心はもちろん、一番大切なことは患者さんが何を求めているかを常に考えながら行動することだと分かった。</p>
<p>今回のセミナーでしか聞くことのできない、医師にとって大切なことややりがいを知ることができた。</p>
<p>ある程度医学部生や医師の生活について想像はしていたが、実際に話を聞いて将来の解像度が上がってよかった。</p>
<p>医学部に興味があるわけではなかったが、今回の講座で地域医療の現状を知り、医師として地域に貢献するのもいいなと思った。</p>
<p>もし医師になるとしたら大分大学に進学したい。</p>
<p>一口に医療といっても色々な職種があると思うので、それについても調べてみようと思う。</p>
<p>自分の進路について、地域枠で入試を受けるという選択肢が増えた。</p>
<p>地域で勤務するのか、都会で勤務するのかで自分の医師としての成長の仕方が変わると感じた。</p>
<p>ディスカッションを通して、医師がどれだけの役割を課せられるのか、どのような動きをしていく必要があるのかを知れてよかった。</p>
<p>地域枠の存在は知っていたが、実際の学生さんや医師の方の声を聞き、初めて知ることが多かった。</p>
<p>地域医療でのメリットをたくさん聞くことができ、地域で働きたいという思いが一層強くなりました。</p>
<p>都心部だと難しい手術を見る機会が多いかもしれないが、執刀する機会は少ないだろうと気づいた。</p>
<p>「最新ではなく最善」という言葉が印象に残った。新しいことは必ずしも最善の選択ではないと知り、やはり医療は患者中心に考えないといけないと思なおした。</p>
<p>チーム医療をハイクオリティーにすることが今後少子高齢化や医師不足の問題解決につながるので、地域の特性考えて工夫していくことが大切だと感じた。</p>
<p>たくさんの学校と交流をすると、私の考えの届かなかところまで考えを深めている人たちの意見を聞くことができておもしろかった。</p>
<p>「チーム医療」における医師の役割はリーダーとして軸となって行動するということが挙げられたので、今後の学校生活でもこの役割をこなせる立場に立とうと思いました。</p>
<p>地域枠制度についてあまり知らなかったが、今回の講演を聞いて非常に魅力的だと思った。</p>
<p>へき地は医師が不足しているので、研修医としてそのような場所で働くのは、地域の医療に対して大きな助けになると感じた。</p>
<p>今後も医師の働き方はどんどん変わっていくと思うので、あらゆる状況に適応してチームの仲間などと協力できるようになりたいと思った。</p>
<p>地域の高齢者率の増加にともない、医療従事者の負担はおおきくなりつつあると知った。</p>
<p>大学の医学部は、勉強ばかりで大変そうだと思っていたが、自分の時間もとることができてとても楽しそうだと感じたので、医学部に行きたいという気持ちが強くなった。</p>
<p>いろいろなことを学ぶことができた。</p>
<p>勉強を頑張って、医学部に合格し、医師として地域医療を支えていきたい。</p>
<p>講師の方々の地域に根差した医療を行っている姿にあこがれました。</p>
<p>医学部の入試制度や、授業、実際に医師を目指すにあたって、勉強をしっかりとすることの大切さをあらためて感じた。</p>
<p>今まで、地域医療と聞いた時、マイナスイメージを持っていたが、今回の講義で地域医療の魅力を実感し、医師になりたい気持ちがつのってきた。</p>
<p>この大分県で医師となり、たくさんの医療関係に携わりたいと思っているので勉強面でもそうだが、今の大分県の医療問題などもしっかりおきたいと思った。</p>
<p>今回のセミナーで、医師や看護師など医療機関の中ではコミュニケーションが非常に大切だということを再認識した。</p>
<p>コミュニケーションを通して、互いに情報交換することが患者さんに最も適した治療を行うことにつながるのだと思った。</p>

# 安心・活力・発展プラン2015

ともに築こう大分の未来

～ 2020改訂版 ～



大分県

[表紙]

題名：「<sup>たん</sup>旦」(1977年制作)

作者：宇治山 哲平  
明治43年(1910年)～昭和61年(1986年)  
大分県日田市出身

[大分県立美術館所蔵]

編集・発行 大分県企画振興部政策企画課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号

T E L : 097-506-2031

F A X : 097-506-1722

E-mail : a10111@pref.oita.lg.jp



## (3) 安心で質の高い医療サービスの充実

基本計画編

### 現状と課題

- 安全で質の高い医療サービスを受けられる体制づくりのため、「治す医療」から、超高齢化社会に見合った「治し、地域で支える医療」への転換と、二次医療圏内で切れ目なく必要な医療が提供される地域完結型医療の推進が求められています。
- 産婦人科医及び小児科医は、中部及び東部医療圏への地域偏在が顕著であり、どこに住んでいても安心して子どもを産み育てることができるよう安全で質の高い医療提供体制の整備が求められています。
- 精神疾患患者が夜間・休日に急変した場合、対応できる医療機関が少ないことから、24時間の救急医療体制の充実が求められています。
- がんに対する効果的な薬物療法として、どこにいてもがんゲノム医療<sup>※</sup>が受けられる医療提供体制の整備が求められています。
- 難病の多様性・希少性のため診断がつくまでに時間がかかるほか、療養上の悩みや医療費などの経済的不安を抱える患者や家族も多く、適切な支援が求められています。
- 県立病院は、高度・専門医療や感染症対策などの政策医療の充実を図ってきましたが、引き続き県民医療の基幹病院として機能の充実が求められています。大規模改修や精神医療センターの開設に向けた対応とともにさらなる経営基盤の強化が必要です。

### これからの基本方向

- どこにいても必要な医療を最適な形で受けることができるよう、ICT<sup>※</sup>による保健医療情報の共有や人工知能（AI<sup>※</sup>）を活用した診断・治療支援等の取り組みの推進及び救急医療・災害医療体制の強化など安全で質の高い医療提供体制の整備に努めます。
- 産婦人科・小児科やへき地等の地域医療を担う医師や看護師等の育成・確保を図るとともに、地域偏在の解消に努めます。
- 新たに開設する県立病院精神医療センター<sup>※</sup>を中心とした夜間・休日における精神科救急医療体制の整備や災害精神医療の一層の充実・強化に努めます。
- がん患者が安心して受けられるがんゲノム医療提供体制の整備に努めます。
- 難病の患者に対する早期診断や、良質かつ適切な医療を提供できる体制を構築するとともに、相談・支援体制の充実を図り、療養生活の質の維持向上に努めます。
- 県立病院は医療制度改革に対応して、高度急性期・急性期機能の強化を図るとともに、中期事業計画を軸に医療機能の充実や経営基盤の強化に努めます。

### 主な取り組み

#### ① 安心で質の高い医療提供体制の整備

- 地域医療構想に基づく医療機能の分化・連携<sup>※</sup>による、急性期から回復期、在宅医療に至るまでの切れ目ない医療提供体制の確立
- 医療・介護に携わる多職種連携による在宅医療提供体制の充実
- 人生の最終段階において本人が希望する医療・ケアの提供体制整備と「人生会議<sup>※</sup>」の普及・啓発
- 医療情報等ネットワーク<sup>※</sup>構築やオンライン診療などを活用した診断・治療支援等の取り組みの促進
- 無医地区巡回診療や代診医派遣の充実、へき地診療所などの施設・設備の整備
- 市町村との共同体制に基づく適切かつ安定的な国民健康保険制度の運営

見直し委員から一言  
人口減少社会の中、切れ目なく必要な医療が提供される医療体制の再構築が必要です。



#### ② 医療従事者の育成・確保

- 大分大学医学部地域科<sup>※</sup>卒業医師や自治医科大学<sup>※</sup>卒業医師の医師不足地域への派遣及び県内定着の推進
- 研修資金貸与や診療技術修得のための研修支援制度の活用による産婦人科医・小児科医確保対策の推進
- かかりつけ薬局の推進に向けた、薬剤師の育成・確保
- プラチナナース<sup>※</sup>の活用などによる在宅医療に適切に対応できる看護職や、高度な技能と専門性を持つ看護職の育成・確保

#### ③ 救急医療提供体制の充実・強化

- 病状に応じた救急、小児救急医療提供体制の整備
- 夜間・休日に緊急の受診の必要性を判断する精神科救急情報センターの設置
- 関係機関の協力・連携のもと、夜間・休日を中心とした精神科救急及び身体合併症治療等に対応可能な県立病院精神医療センターの整備
- ドクターヘリ<sup>※</sup>の運航や隣県との連携による迅速な広域救急医療体制の充実

#### ④ 災害医療提供体制の充実・強化

- 災害時における多数傷病者の受け入れや診療機能の維持に向けた災害拠点病院の機能強化
- 災害派遣医療チーム（DMAT）<sup>※</sup>・災害派遣精神医療チーム（DPAT）<sup>※</sup>の出動体制と災害医療コーディネート体制の充実

#### ⑤ がん・難病患者等への医療及び支援の充実

- がんゲノム医療拠点病院等と連携したがん診療体制の充実強化
- 難病診療連携拠点病院<sup>※</sup>を核とした難病の早期かつ正確な診断の推進
- 指定難病患者への医療費助成と難病相談・支援センターの機能強化



大分DMAT隊員養成研修

#### ⑥ 県立病院のさらなる機能強化

- 県民の求める医療機能の充実
- 良質な医療提供体制の確保と患者ニーズへの対応
- 地域医療機関等との医療連携
- 経営基盤の強化

### 目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度		R6年度
			目標値	実績値	目標値
地域中核病院の医師充足率(%)	26	73.5	77.0	75.5	100